

寄居町名誉町民
元寄居町長

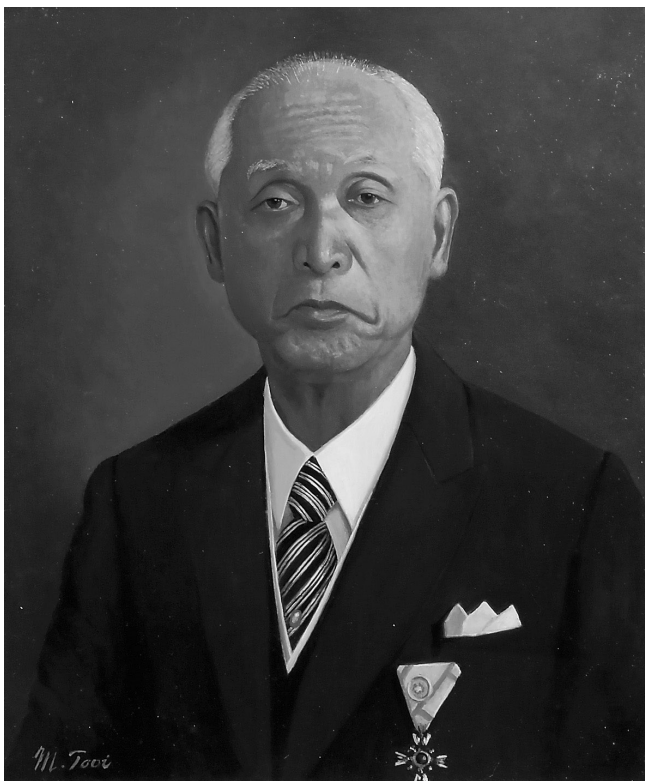
丸橋 安夫氏 逝去

寄居町名誉町民・元寄居町長の丸橋安夫氏が令和3年4月16日に逝去されました(享年94歳)。

丸橋氏は昭和42年、寄居町議会議員に立候補されて初当選。以来、昭和53年までの11年間にわたり、町政の進展に情熱を注がれました。特に昭和51年

から52年までの1年間は副議長として、公正かつ的確な議会運営に手腕を発揮されました。

昭和53年には、多数の町民の信望を担って寄居町長に当選、平成6年までの4期16年の永きにわたり在任し、高尚な政治信念と卓越した識見をもつ



丸橋氏の肖像画

て町の教育、文化、福祉、産業等の向上に大きく貢献されました。

町長在任時には、役場庁舎の移転新築や都市計画道路路天沼通り線の開通、寄居駅の橋上化などの基盤整備に加え、県環境整備センター設置に係る公害防止協定の締結など、さまざまな行政課題に取り組み、多大な功績を収められております。

教育、文化行政については、中央公民館や町立総合体育館・アタゴ記念館の建設に加え、寄居、用土両中学校の統合、町立男衾小学校、鉢形小学校、用土小学校の増改築を行い、社会教育、義務教育双方の環境整備に尽力されました。

福祉行政については、人口の増加、高齢化の進行により、社会福祉施設の設置が望まれる中、総合社会福祉センター「かわせみ荘」を建設し、児童から高齢者まで幅広い年齢層の社会福祉向上に貢献されました。

産業行政については、当時、都市圏の郊外化が進み、町でも農村地域への人

口流入が年々増加する中、農村地域工業等導入促進法により農村地域に大規模工場を誘致し、地域住民の雇用機会を大きく増加させました。

行政面での功績に加え、平成3年に寄居町で開催された「第7回全国水環境保全市町村シンポジウム」では、名水百選に選定された「風布川・日本水」を全国に周知し、「名水の町」の礎を築きました。その後、町は「水源の森百選」、「水の郷」にも選定・認定され、現在は「水の三冠王」と呼ばれています。

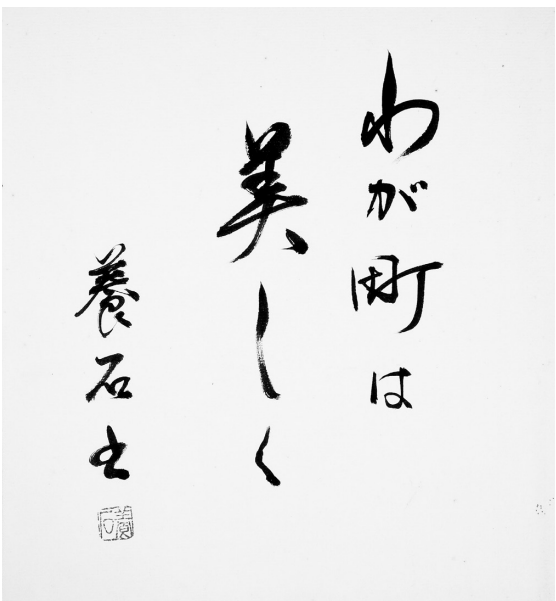
こうした活動、功績により、さまざまな表彰等を受けられ、平成7年には町の最高顕彰である石澤・高田賞を受賞。さらには、平成11年に勲四等瑞宝章を受章され、平成12年には寄居町名誉町民に推挙されております。

また、丸橋氏は漢詩や書に造詣が深く、その方面で大変ご活躍されておりました。「敬天愛人」は西郷南洲(隆盛)が好んで書いたものであり、字のとり「天を敬い、人を愛す」という意味で、町長在任時から座右の銘とされていま



丸橋氏の座右の銘
「敬天愛人」

(丸橋安夫氏揮毫)



丸橋氏が推進した「わが町は美しく」環境美化事業。現在も地域ごとに、熱心に取り組まれています。

(丸橋安夫氏揮毫)



4月22日～28日に役場庁舎に設置された記帳所

した。このほかにも「恕——以貫之——」一生を貫いて持つべきものは恕(思いやり)である、といった言葉を掲げ、当時から住民福祉の大切さを信条に、町政の伸展に日夜務められました。

丸橋氏の、郷土のために捧げられた尊い精神とご功績は、末永く郷土史の上に留められることでしょう。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

経 歴

生年月日 昭和3年4月1日

(町議会議員)

昭和42年5月～昭和53年5月(11年間)

副議長歴

昭和51年5月から1年間

(町長)

昭和53年8月～平成6年8月(4期16年間)

(その他公職歴)

昭和53年8月～平成6年8月 寄居地区消防組合管理者

昭和53年8月～平成6年8月 寄居地区衛生組合管理者

昭和53年8月～平成6年8月 鉢形財産区管理者

昭和55年1月～平成7年1月 寄居町農業委員会会長

(団体歴)

昭和55年5月～平成7年5月 寄居地区農業共済組合理事

昭和53年8月～平成6年8月 寄居町社会福祉協議会会長

(主な表彰関係)

平成 3年 全国町村会長表彰

平成 4年 埼玉県知事表彰

平成 7年 寄居町石澤・高田賞

平成 11年 勲四等瑞宝章

平成 12年 寄居町名誉町民推挙